

令和3年度学力向上推進会議

ちばっ子「学力向上」総合プラン
(ダブル・アクション+ONE)

評価表

千葉県教育庁教育振興部学習指導課

Action1 目指す姿

「自ら課題を持ち 多様な人々と協働し 粘り強くやり抜く子」

【評価項目】 児童生徒の「学ぶ意欲の向上」

【評価の観点】 ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

事業担当者による自己評価

ア 人的配置により学ぶ意欲の向上につながっているか

		2-1	3-1	3-2	4-2	6-1	6-2	視点ごとの評価
		「千葉県学習サポーター」派 遺事業の充実	「特別非常勤講師」の配置	業「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の充実	の外国語指導助手（ALT）等 の配置	充 実 ICTを活用した学習指導の	個に応じた学びの推進	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a	a			b		a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか		a	a	a	b		a
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか					b		b
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか				a		b	b
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか			b				b
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	a						a
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか	a	a					a
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか							
	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか							
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか	a					b	b
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか							

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

イ 教育環境の整備により学ぶ意欲の向上につながっているか

		1-1	1-2	1-3	4-1	5-1	5-2	5-3	視点ごとの評価
		ちばっ子チャレンジ100 (小学校)	ちばのやる気学習ガイド(中学校)	「家庭学習のすすめ」サイト の活用促進	ICT(学習支援ソフト)の活用	「SSH」の活用	子園「科学の甲子園」大会の開催	進学指導重点校(高校)における教育活動の充実と普及	
児童生徒	児童生徒は、自らの課題を明らかにして学習活動に取り組めたか	a	b	a	a			a	a
	児童生徒は、多様な価値観にふれたり、普段体験できない活動が行えたりしていたか				a	a			a
	児童生徒は、協力したり協働したりしながら学習する良さを実感できていたか				a		a		a
	児童生徒は、活動の意味を理解し、最後までやろうとする意欲を持てたか								
	児童生徒は、見通しを持って活動に取り組み、最後までやろうとする意欲を持てたか	a	b	a				a	a
	児童生徒は、主体的または計画的に学習に取り組めたか	a	a	a	a				a
	魅力的な学習活動であり、児童生徒が最後までやろうとする意欲を持てたか								
県教委	児童生徒が自発的、計画的に学習に取り組むための支援ができたか		a	a		a			a
	児童生徒が学ぶことが楽しいと思える教育活動を支援できたか	a							a
	児童生徒が学ぼうと意欲的になるための教育活動を支援できたか			a			a		a
	児童生徒が将来の夢や希望が持てる教育活動であったか							a	a

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観点	学力向上推進会議からの意見
ア	<p>学習サポーター派遣事業は、授業を展開する教員とは違う角度から児童及び生徒を支援し、きめ細かなサポートをすることができる重要な事業であると視察を通して感じた。児童の理解度が深まり学ぶ意欲の向上につながっている現場を目の当たりにした。現場の意見や要望を精査し、より効果が上がるよう更なるブラッシュアップを望む。</p> <p>「ICT活用の学習指導の充実」では、各校の格差は見られるものの生徒がICTを使って学ぶ意欲を高めていることが実感できた。事業担当者の評価はもう少し高くてもよいのではないか。先行（成功）事例については、他校との交流で情報共有をもっと広めるべきと考える。</p>
イ	<p>「SSH」の活用や「科学の甲子園」などは、「それらの制度やイベントがある」ということ自体が、生徒の意欲向上につながっていると思われ評価できる。新型コロナウイルスの影響で開催しにくい状況が続いているが、ぜひ継続していただきたい。</p> <p>また、ICT研修では、3校の具体的な実践事例をもとに、県内各校の教員間で積極的な議論がなされていた。ICTの環境整備だけでなく、このように実際に活用する教員同士のノウハウ交換・流通の場が、児童生徒の学びに還元していく上では非常に重要であり、とてもよい取組だと感じた。</p>
<p>【Action 1 について】</p> <p>全体として、事業の推進が児童生徒の学習意欲の向上を図るプランとなっている。プランを充実させ今後も継続してほしい。全県各校でICT教育環境の整備充実を図ることを要望する。</p> <p>また、ほぼすべての事業において評価が妥当であるといえる。今後は、予算が付いた事業については、課題・問題点を精査し更により事業になるよう次年度につなげたり、高等学校の研究協力校などの指定は、進路が多様な学校や専門高校などを指定したりする方が、その後の県内波及を考えた際には、スピードをもった波及につながるのではないかと考える。</p>	

Action2 目指す姿

「子供と社会の変化を捉え 自律的に学ぶ姿勢をもち 授業を工夫する教員」

【評価項目】 教員の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

【評価の観点】 ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

事業担当者による自己評価

ウ 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を意識した取組につながっているか

		8-1	8-2	8-3	9-1	9-2	視点ごとの評価
		ム高「 」の活 用促進 モデル プログラ を	「学 力向上 交流会」 の開催	証指 校定 （「学 力・学 習状況」 研究 検	タ「授 業づく りコー ディネ ー	進「私 の授業 レシピ 」の活 用促	
教 職 員	教職員は、児童生徒の学ぶ意欲を引き出すために、教材を工夫したか					b	b
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を意識することができたか	a	a		b		a
	教職員は、授業改善に向けて「実践モデルプログラム」を活用したか	a		b	b		b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

エ 授業改善を意識した研究・研修・分析ができているか

	7-1	8-2	8-3	9-1	9-2	9-3	10-1	10-2	10-3	11-1	11-2	11-3	視点ごとの評価
	用促進 「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用	「学力向上交流会」の開催	証校） 「ちばっ子の学び変革」研究指定（「学力・学習状況」検	「授業づくりコーディネーター」の認定	「私の授業レシピ」の活用促進	U10学びの未来づくり	優良・優秀学校図書館の認定	学校図書館活用に関する研修の実施（新任校長研修）	学校図書館活用に関する研修の実施（公立図書館連携研修）	研修履歴システム「Asttra（アストラ）」の運用	授業力を高めるための理論的・実践的な研修	「校内研究モデルプラン」、eラーニングによる効果的な研修等の推進	
教職員	教職員は、授業改善に資する学校図書館の環境整備を行ったか						b	b	a				b
	教職員は、授業改善に向けて前向きに協議や研修を行ったか	b	a			c				b		b	b
	教職員は、授業改善の具体的な方法を学ぶことができたか				b						a		b
	教職員は、授業改善の手段として学校図書館を活用したか						b	b	a				b
	教職員は、授業改善に向けて情報交換を十分に行えたか		a			c	c				b	b	b
	教職員は、授業改善の効果を実感することができたか			b			c				b		b
	教職員は、進んで授業改善を行おうと意識することができたか	b		b			c	b			a	b	b

※a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の 観点	学力向上推進会議からの意見
ウ	<p>学力向上交流会は、現在の学習指導の動向を知ることができるとても意義のある会である。今年度はオンラインによる開催であったが、参加した職員の報告や事業評価の資料より、全国学力・学習状況調査の結果に基づいて、指導内容を検討していたことが伺えた。</p> <p>『思考、表現する力』を高める実践モデルプログラム」の活用促進については、授業改善の方向性が明確に示されており、またそれに対応したチェックシートも提示されていることで、活用が促進されている。一方で、中学校の事例が少なく、取組事例に地域の偏りがあるので、学力向上交流会等を活用しながら、県内全体で取り組む風土づくりの必要があると考える。</p>
エ	<p>『全国学力・学習状況調査』のデータ及び分析ツールの活用促進」を確認した担当者の報告内容や事業評価の資料より、授業改善を意識した研究・研修・分析ができていたことが伺え、評価できる。</p> <p>一人一台端末時代になり、学校図書館の在り方を考える時期に差し掛かっている。ICTばかりに傾倒することなく、読書センターや学習・情報センターとして、情操教育や調べ学習等の一端を担うことが重要である。学校図書館活用推進事業は、学校図書館長（校長）、司書教諭、学校図書館担当の連携を推進する事業として期待したい。</p> <p>研修履歴システム「Asttra」の運用は、教師自身のキャリア形成への意識づけになっている。各種研修の充実、教員の授業改善につながることを期待する。</p>
<p>【Action 2 について】</p> <p>コロナ禍の中、様々な事業（研修、会議等）がオンラインによる対応となったが、次年度も、このような状況が続くようであれば、相互による情報交換ができるように、より内容の充実に期待したい。</p> <p>「学力・学習状況」検証校などは、授業形態を発展させ、地元企業と連携した授業を実践するなど、ICT利活用との相乗効果を生み、教職員の授業力の向上意欲の醸成につなげている。このように、他の事業においても、本来の目的以上の相乗効果が期待できる内容となっており、引き続き取り組み、実践するに値するものと確信している。</p>	

【総合評価】ちばっ子「学力向上」総合プランの全体評価

(学力向上推進会議による総合プランの全体評価)

- 【評価の観点】
- I 各アクション、各事業の評価は適切か
 - II 前年度の評価等を活かした事業内容改善の成果は上がっているか
 - III ちばっ子「学力向上」総合プランにより、児童生徒の学ぶ意欲は向上しているか
 - IV ちばっ子「学力向上」総合プランにより、教員は授業改善を図っているか

学力向上推進会議による第三者評価

*学識経験者、学校教育関係者、保護者代表等による評価

評価の観点	学力向上推進会議からの意見
I	各アクション及び各事業の評価は適切に行われていると判断できる。「ICT活用の学習指導の充実」についてはa評価でもよいのではないかという指摘があった。
II	前年度の評価が事業内容の改善に活かされ、事業の成果が向上していることが確認できる。今後、リアルなコミュニケーション、対話等を重視することで一層の成果が望めるのではないかという指摘があった。
III	「千葉県学習サポーター」については視察等を通して児童生徒の学ぶ意欲の向上につながっていることが確認できた。「科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア」については事業自体に意欲向上の効果が認められた。
IV	全国学力・学習状況調査の分析及びデザインシートは確実に授業改善につながっている。学力向上交流会やICT研修会、学び変革推進事業における学校の実践等では、教員の高い意欲や向上心が見られ、今後の発展や内容の充実に期待できる。

【ちばっ子「学力向上」総合プランについて】

ちばっ子「学力向上」総合プランの二つのアクションは、アクション相互の関係、事業同士の影響等が明確で分かりやすい。そのため評価が明確になり、「千葉県学習サポーター」「科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア」等の児童生徒の学びに対する効果や、「学力向上交流会」「ICT活用の学習指導の充実」等による教員の資質向上が確認できた。